

平成 29 年 2 月 4 日  
一般社団法人日本気象予報士会

### 第 3 回気象予報士 C P D 運営委員会議事録

日時 平成 29 年 2 月 4 日（日） 15 時 00 分～17 時 00 分  
場所 日本気象予報士会本部事務所 （東京都港区虎ノ門 3-3-3 虎ノ門南ビル 3 階 A）

#### 出席者

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 田中 博  | 筑波大学 計算科学研究センター 教授             |
| 藤部 文明 | 首都大学東京 特任教授                    |
| 川瀬 宏明 | 気象庁気象研究所 研究官                   |
| 杉浦 幸彦 | いであ株式会社 沿岸・海岸事業部長              |
| 酒井 重典 | 一般社団法人日本気象予報士会 顧問              |
| 大西 晴夫 | 一般社団法人日本気象予報士会 代表理事会長          |
| 平松 信昭 | 一般社団法人日本気象予報士会 理事副会長           |
| 岩田 修  | 一般社団法人日本気象予報士会 専務理事幹事長         |
| 内山 常雄 | 一般社団法人日本気象予報士会 常務理事 C P D 担当幹事 |

#### 議 事 概 要

1. 運営委員会田中委員長のあいさつと出席者の自己紹介に続いて、平松委員の司会によって議事に入った。

#### 2. 気象予報士 C P D 制度運営実績報告

事務局から以下の報告を行った

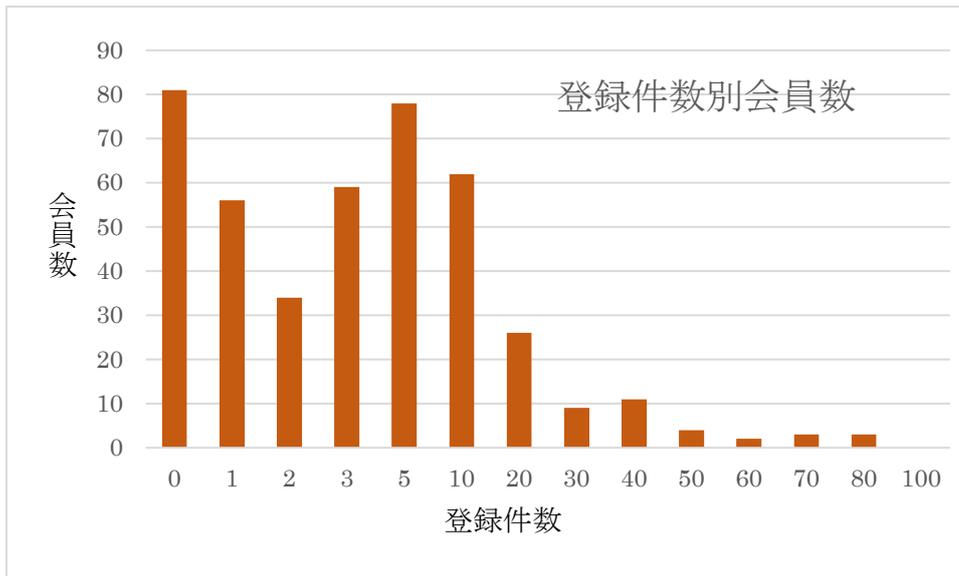
##### ア. 気象予報士 CPD 制度利用会員数の経緯

- 2015 年 1 月から制度を試験運用し、1 年後の 2016 年 1 月から正式運用を開始した
- 2017 年 1 月 31 日現在 1,195 名が CPD ポイント管理システムに登録している
- 大半が日本気象予報士会会員であるが企業会員は 295 名となっている

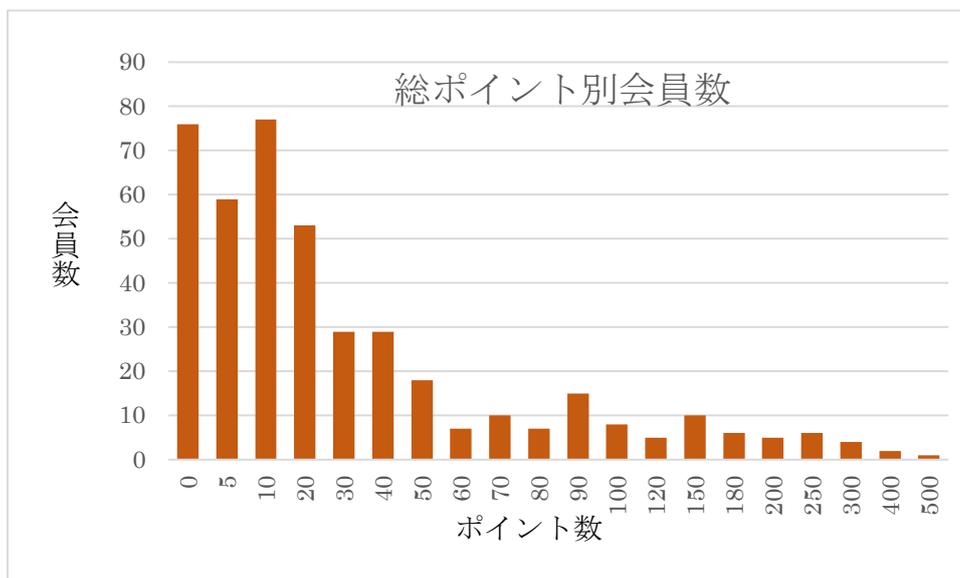
##### イ. 制度利用会員の CPD ポイント登録状況

- 予報士会会員の登録者の約半数の 450 名がポイント登録を行っている  
登録件数が別会員数のグラフを示す。

会員登録を行ったが CPD ポイントを何も登録していない会員が 80 名ほどいて、登録件数が 10 件以内の会員が大半だが、数 10 件も登録している会員もいて、制度に対する会員間の温度差が大きい。



●  
総ポイント別の会員数のグラフを示す。



- 自己学習を積極的に登録している会員がいる
- 一方で、年間数ポイントしか積みなかった会員が3年目には登録をやめてしまった会員が50人ほど見られた
- 技能研鑽活動を記録することがCPD制度の目的の一つであり、ひとまずすべての活動のポイントを計上してもらおうが、認定の際にどこまでポイントを認めるかが課題となる
- CPDポイント登録状況から、会員の活動実態が把握できる
- 活動内容から、社会貢献活動等への派遣候補者の選定に利用できる（すでに同様の活動を行っている、活動していることを宣伝していると理解できる）

ウ. 活動の証明方法について

- 当初主催者が受講証を発行することをお願いしたが、手間がかかることから、受講者名簿を送付する方向になっている
  - 受講証の発行の手間と受講者が受講証をアップロードする手間の双方が嫌われた
  - 一方、気象学会などへ受講証の発行を要求する会員もいる
  - 気象学会へのポイント認定の出席証明について議論となった。

この点については、気象学会の講演会やシンポジウムの出席者については本部がかかわっている行事は把握できるかもしれないが、研究会など自由参加の形式となっており、出席者名簿の要求はできないだろう。公開気象講演会の際に発行した参加証明書はひな型になるが、参加者が作成した書類にサインする方式が一案である。気象学会に迷惑をかけている状況にあることから何かの対応をする必要がある。気象学会の理事会の中で気象予報士 CPD 制度を紹介する席を作りたい。認定者が出る状況で説明するのは良いタイミングで CPD 制度の実態が分かっていないので、説明することは重要であろう。教育と普及委員会で平松委員に 10 分でも説明してもらい、「天気」に記事を載せてもらうなどが考えられる。

#### エ. 建設系 CPD 協議会への加入について

- 早く建設系 CPD 協議会へ参加してほしいと要望事項を提出した予報士会の会員がいる

建設系の CPD だけではポイントがたまらないので、予報士 CPD のポイントが流用できるとありがたい、という意見があった。これについては、実際には法人会員が増えないと建設系 CPD 協議会の会費支払い額が 30 万円程度と想定され、当面加入は難しい。

他の CPD 制度とのポイントの多重登録について質疑があった。これについては、各制度にポイント登録することは問題ない。認定証を入札等に利用する際に、提出できる証明書は単一の CPD 制度の 1 通となる。一方で、気象予報士会のプログラムが他の CPD 制度で認められれば、それが確かなプログラムであることが認められたことになる。

#### オ. 運営収支の状況

- 収入 協賛企業 2 社 から計 30 万円
- 今年の支出 管理システム保守 20 万円（執行未払い）
- 管理システム サーバ費 4.8 万円
- 会議費 3 万

今後、定常的に管理プログラムの保守費用を割いて、規模の拡大に対応し、使いやすいシステムにする必要がある。

ソフトの保守業者の引継ぎを将来的に考える。建設系入会よりソフト保守の問題のプライオリティが高いと考えている

### 3. 気象予報士 CPD 認定会員の認定手続きと審査

会員によって、登録ポイント数に大きな差があるが、その中で単一の形態で 40 ポイ

ントを超えるポイント計上を行っている例がある。そうなると、単一の活動だけで CPD 認定されてしまい不適當と考えられる。

現在「企業内研修および OJT」と「業務経験」は上限が 20 ポイント、「委員会等への参加」と「その他」は上限が 10 ポイントに設定されている。一方、「講習会等での受講」、「論文等の発表」、「技術指導」の上限は設定されていない。

この点について、ポイントをひとまず計上することは問題ないが、認定する際はポイントの差が極端に大きくならないように、すべての形態について上限ポイントを設定した方がよいとの意見が多かった。

論議したところ、上限設定はすべての項目に行うべきとの結論となった。そして、上限ポイントは「その他」は 10 ポイントとするが、それ以外の形態は一律 20 ポイントとするとの結論となった。

なお、大学の講義は同じことの繰り返しとも言え、大学教育は技術指導ではなく委員会かもしれないとの意見があった。

レベルの難易でポイント差をつけることを言い出したらきりがないので、上限を定めることで納得してもらいたいとの意見があった。

この制限ポイントの変更は 2017 年度の認定時から 2014 年の登録データにさかのぼって行うこととする。

#### 4. 気象予報士 CPD 制度ロゴマークの選定

気象予報士 CPD 認定者のバッジに用いたり、制度の宣伝を行うためのロゴマークを制定することにした。

予報士会の会員に呼びかけたら 9 名の会員から 10 件の応募があった。

予報士会の幹事会でその中から 3 件の作品に絞り込んだ。

最終決定は運営委員会で行うことが適切と考え、この場で選定することとした。

最終的に 2 番のデザインが選定されたが、次のような意見があった。

「気象予報士 CPD 認定者」の文字の位置や形態を考えて、丸いバッジに適したものにしたい。

認定者のバッジに利用するロゴと制度を宣伝するロゴが同じでよいか？

2 番のデザインは太陽が赤くなっているが、モノクロで印刷された場合など、モノクロの場合のグラデーションをどうするか考えた方がよい

募集の際に、選考したデザインを改変することがあると断っているので、今後予報士会の幹事会で話し合って決めていきたい。



気象予報士 CPD 認定者

選定されたデザインを上を示す。文字については「気象予報士 CPD 制度」とすることも含め、今後の検討課題に残されており、図形の上や下に文字を入れたり、図形を丸く囲むようなデザインも今後考える。

## 5. 今後の制度運営課題

- CPD 制度のメリットを出せるようにしていくことが課題。
- 森田さん、森さんなどの民放のキャスターに売り込んでもらうことも考える
- 入札時に有利になることを宣伝に用いるには建設系 CPD 協議会に入る必要がある。
- CPD を持っていることを履歴書に書けるようにするためには、認知度を上げる必要がある。
  - CPD 制度のメリットを出すことは最初から課題となっていた。資格の差別化はよくないが研鑽を積むのはよいこと。

ここで、予報士が特に地方では募集しても集まらないという話題が出された。これに対して、給与が低いことが問題で仕事がきつくても給与が高ければブラック企業といわれない。給与を上げることがまず必要という意見があった。

- CPD 取れたらカッコいいでもいいから、一般公開して広めていきたい
- 認定に当たっては、予報士会の中で手順に従って作業を行って、形を整えた上で認定委員会にあげる必要がある。
- バッジを貸与にして3年後に返すという規定をつける必要がある。
- バッジに認定者番号をつけて3,000円で配布する。再発行は1万円にするぐらいでよいのではないかとの意見があった。